



市民自治をめざす 2008.5.25 28号 1000人の会 NEWS

発行 市民自治をめざす1000人の会 住所 〒271-0092 千葉県松戸市松戸1879-24 ほくとビル5F
Tel&Fax 047-360-6064 E-mail shinji-1000party@msj.biglobe.ne.jp
郵便振替口座 00130-0-76000 http://www5b.biglobe.ne.jp/~matsudo

高齢者を殺すな！

●高齢者に負担増と差別医療を強いる後期高齢者医療制度の中止・撤回を！ 請願署名にご協力を！

福田政権の支持率が20%前後に下落しています。その大きな要因が、この4月からスタートした「後期高齢者医療制度」に対する国民からの「現代のうばすて山だ！」「高齢者を殺すな！」との厳しい批判が渦巻いているからです。

■世界に例を見ない差別医療制度だ！

「後期高齢者医療制度」は75歳以上のすべての高齢者が現在加入している国保や健保から脱会させ、①生活保護受給者を除く75歳以上の高齢者から保険料を徴収する。②月額15,000円以上の年金受給者からは保険料を年金天引きする。③75歳以上でも保険料を払えない人からは保険証を取り上げ、窓口で医療費全額を負担させる。④後期高齢者だけを対象にした別建ての診療報酬制度を設定し、高齢者に差別医療を強いるものです。さらに、70歳～74歳の窓口負担を1割から2割へ引き上げ、負担を押しつけています。

高齢者にあらたな負担を強いるばかりか、国民皆保険制度を形骸化させ、高齢者の命と健康を大きく損なうなど、「現代のうばすて山」に他なりません。このような制度は世界に例を見ません。

どの世論調査でも、「見直し・廃止」を求める声が7割以上となっており、都道府県医師会の半数を超える医師会が「反対」「慎重な対応」を求めています。

■もはや撤回・廃止しかない！

ところが、福田政権と与党は「制度の骨格、考え方は必ずしも悪くない」との姿勢を変えていません。厳しい批判の中で、低所得者保険料の均等割部分の削減や保険料が急増した人の激変緩和策などを創設

することでお茶を濁そうとしています。これほど国民の批判を受けても、党内からは「制度の撤回・廃止」

を言い出す議員がいません。新自由主義、米国型社会を模倣した「小泉改革」を全面的に見直すときです。

野党4党は、1月に提出した廃止法案を修正し、あらたな廃止案を参議院に提出します。政財官による「一挙三得」で生まれた後期高齢者医療制度を撤回・廃止させましょう。



■松戸市議会も撤回の意見書を国へ上げろ！

6月定例会に向けて、多くの市民・団体が「後期高齢者医療制度の中止・撤回を求める松戸市民ネットワーク」に参加し、中止・撤回を国に求める請願署名に取り組んでいます。請願項目は①高齢者に負担増と差別医療を強いる後期高齢者医療制度を中止・撤回すること。②70歳～74歳の窓口負担の2割への引き上げを止めること。③国民皆保険制度を充実させるため、医療費削減を見直し、医療につかう国の予算を増やして、高齢者・国民が安心して医療を受けられるようにすること、です。

松戸市議会は、12月定例会に出された同趣旨の請願を不採択にしています。この4月を境に状況が様変わりしてきただけに請願を採択し、国に意見書を提出する気概を示してほしいものです。請願署名にご協力ください。

みんなでつくろう 「関さんの森エコミュージアム」

松戸市幸谷の「関さんの森」をご存知ですか。30年以上の間、松戸市が借りて「子どもの森」として地域で親しまれていました。都市化が進む松戸市の中でも、奇跡的に昔のままに保全されている場所です。

この森をその生態系のまま保全しようと、半分が「財団法人埼玉県生態保護協会」（千葉県にはありません）に寄付されました。そこで地域の市民の手で管理・育成していこうと「関さんの森を育む会」が立ち上がりました。

この「関さんの森を育む会」の活動も13年たちました。今では年間延べ約5000人が様々な森を利用しています。自然学習、環境学習、社会科学習、生活科学習などの小学生だけでも延べ2000人を越える利用があります。また中学生、高校生、専門学校生、大学生、市民グループの自然観察、里山ボランティア体験に、お年寄りのグループはゲートボールにランドゴルフ、デイサービスのお茶会や昼食会にと幅広く利用されています。

この「関さんの森」を、学習・体験の場・自然や歴史に親しむ場として、確実に維持・管理していくために「関さんの森エコミュージアム」が発足します。

屋敷林・梅林・竹林に遊水地、農園と広場、江戸時代からの蔵と門（名主の格式を持つ）、蔵の中には名主の頃の古文書と民具、『熊の脇』という字名の由来である「熊野権現」の塚。13年の実績を積んだ「関さんの森を育む会」とともに、これらを活かした「関さんの森エコミュージアム」です。

でも心配な事があります。松戸市が、この「関さんの森」を分断して松戸市道3・3・7号線道路を作ろうとしていることです。所有者の関



さんは、今のままの自然、生態系、江戸時代からの蔵や門、百年、二百年を越える大木を保全した形での道路建設を望んでいます。

先代の関武夫さんもこよなくこの森を愛し、大変な努力で「道路地下案」の陳情が松戸市議会で採択されました。事実は不明ですが、「開発技術センター」による調査報告書ではこの森の大切さが強調されていたにも関わらず、市は所有者の同意を得ずに地上案のままで事業認定をとりました。今までは松戸市営水道の配水池の関係で道路建設が出来なかったのですが水道移転の目途がついたため、「関さんの森」を分断して道路を作ると言い出したのです。

強制収用をもちらつかせている松戸市と「お金は要らない、この森を次代の子どもたちへの贈り物にしたい」という所有者の関さんとの話し合いが続いています。大型自動車がスピードを上げて通る真っ直ぐな道路と関さんの森に少し譲って自動車がゆっくり通る道路と子どもたちはどちらを喜びますか。

7月21日(月)海の日に、流経大学新松戸キャンパスで開催される「関さんの森エコミュージアム記念シンポジウム」に参加して、みんなで「関さんの森エコミュージアム」を作りましょう。